

# 桂浜たより

第13号

桂浜を守り育てる会—桂浜水族館応援団— 会報



開通50周年を迎えた浦戸大橋  
桂浜と浦戸湾の眺め(高知新聞社提供)

## ごあいさつ

暑中お見舞い申し上げます。

浦戸大橋が開通して50歳を迎えました。景勝地桂浜と種崎を結ぶこの大橋は、今や産業、生活そして観光道路として重要な役割をしています。

牧野富太郎博士をモデルとした連続テレビ小説「らんまん」の放送が決まり、これを「観光の起爆剤に」と高知県知事も表明しました。牧野植物園のある五台山も賑わうことでしょう。

桂浜公園も新しい商業施設「海のテラス」が今秋のプレオープンめざして進められています。

桂浜と五台山は昔知れた遠足の名所。この両観光地を結ぶ浦戸大橋が架け橋となりいわゆるヨサコイ(浦戸湾)観光が脚光を浴び、さらに発展することを期待します。

令和4年 盛夏

桂浜を守り育てる会 代表 ながくに まさひこ



生後1カ月半の赤ちゃんペンギン(仮称ぼんず)  
2022・7・22 ハマスイスタッフ:撮影

## わが心のふるさと「桂浜水族館」

私は昭和46年に、桂浜水族館がある高知市浦戸で、天ぶら屋を営む両親の長男として生まれました。

小学生の頃は、夏休みになると毎日のように桂浜水族館に通いました。その理由は、当時は地元の小学生は入館料100円で、水族館内の子ども用遊泳プールで泳げました。そして、当時は「イルカのショー」が終わった直後に、隣で泳いでいる私たち小学生を飼育員さんが呼んでくれ、なんと私たちはイルカの背びれにつかまって、イルカプールを一周させてくれました。

それには、観光客の方々もビックリされ、「君たちは地元の小学生か？イルカにつかまって、一緒に泳げるなんて、めちゃくちゃいいな！うらやましいな！」と、よく声を掛けられました。

今でも、あのゴムのようなイルカの背びれの感触は忘れませんし、大学進学で県外に出た時に、友達との



少年時代、筆者とワンパク仲間とで水族館でイルカ遊びなど楽しく過ごした記念です。緑の帽子と格子のシャツ姿が筆者



衆議院議員 山崎正恭

話題で「桂浜」の話が出る度に、必ずと言っていいほど、このイルカと一緒に泳がせてもらった話を自慢げに語りまくりました。(笑)

その後、時代が桂浜水族館に追いつき、イルカと泳げる体験コースなどが出てきましたが、「俺らは、ずっと昔からイルカと泳がしてもらいよったがで！」と誇らしく思うとともに、そうやって地元の小学生に、浦戸でしかできない貴重な経験をさせてくださった桂浜水族館さんに感謝の思いでいっぱいです。

小さい時に、住んでいる地域のみなさんに大切にさ

れ「私の暮らしている地域って良いな！人って良いな！」という経験をした子どもたちは、将来自分の地元に戻ってきたり、他で暮らしていても地元の行事に戻ってきたり、地元の応援をするようになる、このことは“心のふるさとづくり”と言われて、今、力を入れている学校や自治体もありますが、今から約半世紀も前から桂浜水族館さんに、そういった経験をさせていただいたおかげで、私は地元・桂浜が大好きです。

大学卒業後、ふるさと高知に戻り、中学校の教員となり、子どもが小学校に入学するタイミングで、私が生まれ育った環



浦戸小学校の入学式と運動会でのおとどちゃん



うらどまりんらんどの様子

境で子育てをしたいと地元・桂浜に帰ってきました。その頃から、まちづくりに参加するようになり、永國雅彦・理事長さんと出会い様々お世話になり、そして、3年前に県議会議員になった頃に、秋澤志名・現館長にお会いしましたが、そのパワフルさと発想力、行動力は、当初から「ただものではない」と思いましたが、その後のご活躍に、多くのことを学ばせてもらっています。

秋澤館長はじめ桂浜水族館のみなさんに、わが地域・浦戸はたくさん助けてもらっています。4年前に地元・浦戸保育園の園児が10人となり、このまま入園児がいなければ閉園という危機に陥った時には、県内初の保育園内水族館「うらどまりんらんど」の設置に全面協力していただき、それらの取り組みにより現在は園児が定員を超えて存続することができています。他にも、「夏祭り」や「秋祭り」等に、理事長、館長さんをはじめSNSで話題の“イケメン飼育員”さんが積極的に参加してくださったり、さらに今年は全国に名をはせる桂浜水族館の名物キャラクターおとどちゃんが、誕生から6年を経て、なんと浦戸小学校に入学してくれるなど、大いに地域を盛り上げてくれています。

今度は、私たちが桂浜水族館さんに恩返しをする番です。本年度より桂浜公園再整備が本格的に始まり、

今、桂浜が大きな転換点を迎えています。高知県観光の“一丁目一番地”である桂浜が活性化されることで、高知県内への波及効果は絶大なものがあります。その中で“なんか変わるで！マイナスをプラスに！”と、地方創生・活性化の取り組みをパイオニアとして強力に推し進めているわがふるさと自慢の桂浜水族館が、ますます魅力的に発展していくよう私も全力で応援してまいります。

### 山崎正恭 略歴

出身：高知市浦戸

生年月日：1971(昭和46)年3月5日

1993(平成5)年 中京大学経済学部卒業

1994(平成6)年4月～田野中、室戸中、野市中、安芸中勤務

2010(平成22)年 鳴門教育大学大学院修了

2010(平成22)年4月～高知県教育委員会勤務

2015(平成27)年4月～野市中学校教頭

2019(平成31)年4月～高知県議会議員

2021(令和3)年11月～衆議院議員(1期目)

# おとどちゃんは浦戸小学校の1年生



高知市立浦戸小学校  
校長 藤田 由紀子

3月のある日、桂浜水族館の秋澤館長から、「うちのおとどが6歳になるけど、高知市から入学通知書がないの」といった内容のメールが届きました。すぐに「本校への入学を許可します。入学通知書は私が作成して持っていきます。入学式に来てね」と返信。おとどちゃんが本校の1年生になることが決まりました。



4月7日の入学式には、おとどちゃんとお母さんとお父さんが出席。その様子は、高知県内の民放テレビ局3社等で報道されました。おとどちゃん以外の7人の1年生は、ただでさえ緊張の入学式に、突如とピンク色の大きなお友達が現れ、テレビカメラに囲まれるというなんだか分からない事態に最初は戸惑っていました。でも、すぐにおとどちゃんと打ち解け仲良しになりました。次の日、学校に来ないおとどちゃんをみんなが心配していたので、「オンラインで校長先生と勉強しているから大丈夫」と話したことでした。

現在おとどちゃんは、行事に積極的に参加して小学校生活を満喫しています。遠足では、子どもたちに水族館を案内してくれたり、マグロの半身をもってみんなと一緒に弁当を食べたりしました。運動会も大活躍でした。1年生のかけっこ、魚釣り、綱引き等たくさ



んの競技に参加し、盛り上げてくれました。応援中もずっと低学年のテントにいて、みんなとさらに仲良しになりました。

先日、県外の学校とのオンライン交流会がありました。1年生はおとどちゃんのことを「私たちの同級生だよ」「足が意外にはやいよ」「いつも口が開いてるよ」等と嬉しそうに自慢のお友達を紹介していました。



ところで、「どうして、おとどちゃんが入学することになったのか」「どういう目的があるのか」といった質問を受けることがあります。もともと、水族館には遠足や探究学習などでお世話になっています。子どもたちの大好きな学びの場ですし、いろいろ魚のことを教えてくれる飼育員さんのことも大好きです。

そんな、大好きな水族館の人気者が入学するなんて子どもたちが喜ばないわけはありません。「子どもたちの驚く顔と笑顔が見たい!」理由はこれだけです。思った通り、どの行事でもおとどちゃんがきてくれると子どもたちの笑顔がより輝きます。周りの大人たちも自然と笑顔になります。そして、なんだかみんな優しくなるのです。



これから子どもたちには、おとどちゃんと一緒にいるからこそ学べるものがこれからたくさんあると思います。

おとどちゃんを含めた子どもたちには、みんな一緒に大きく優しく成長して欲しいと願っています。おとどちゃん、浦戸小学校に入学してくれてありがとう。

## 桂浜の出来事

### ・桂浜公園の整備

#### 1 県補助金を活用した整備

令和3年8月から始まった公園のアメニティ整備が令和4年2月完了した。

本浜休憩所の新設をはじめ洗面ブースの更新、遊歩道の整備等が行われ新しい明るい施設として生まれ変わった。

- ・本浜休憩所整備(1階にテナントスペースやトイレ、屋上に展望台)
- ・洗面ブース更新(自動水洗等)・和式から洋式への便器更新)
- ・園内サイン更新(QRコードを活用した多言語対応)
- ・園路整備。Wi-fi整備

(高知市HP)

#### 2 商業施設等の整備進捗状況

既存の商業施設を活用して、新たな事業展開をすべく全面的な改築、改装工事が進められている。

新しい公園指定管理者として本年4月から運営を始めた「はりま家」の手で整備が実施されている。

今秋にはプレオープン、来春3月グランドオープンが予定されている。

さてさて、どんな種類のお店が、どんな形で登場するのか！

お目見えは、もうすぐだ。わくわく気分で待っている。

#### 3 浦戸大橋開通50年

今年7月浦戸大橋が開通して50年を迎えた。(1972年7月12日開通)

高知新聞で紹介された、浦戸大橋の意義や重要性を改めて認識した。「世界一のコンクリート橋」が浦戸と対岸の種崎を結ぶ。この画期的な構想に地元民は驚きと期待をもって見守った。あれから50年。今では浦戸湾東西兩岸を結ぶ交通の動脈的な役割をしており朝夕のラッシュ時は数キロの渋滞が続く、何とかならんかと苦情じみたことを口走るが、考えてみるとこの橋の恩恵の大きさに頭が下がる。産業、観光、生活道路としての役割はもちろんのこと、橋の上からの浦戸湾や太平洋の景観、龍馬マラソンのコースなど観光面名所となっている。

はりまや橋から浦戸湾を経て浦戸、桂浜に至るいわゆる観光南北ラインの提唱をされたことがあるが、遊覧船や海上レジャーなどを楽しむ海路コースと五台山、種崎千松公園、浦戸大橋、桂浜を結ぶ陸路ラインがある。ホットニュースとして、来春には牧野富太郎博士をモデルとしたNHK連続テレビ小説「らんまん」が始まる。

浦戸、種崎の兩岸を結ぶ浦戸大橋は高知観光の架け橋として再び大きな期待がかかっている。



浦戸大橋

## 美人?館長のモノローグ



例年より早く梅雨が明けた  
2022年。

暑い夏がまた桂浜にもやっ  
てきた。

当館は昭和の施設で、自然風をうまく取り入れた空調を施しているためエアコンがない。ないならつけたらよいのではないと言われるが設置してもエアコンから出る冷気はすべて館外へ出てしまうのだ。しかし近年の猛暑続きで、冷気が逃げようが局所的にでも冷やさなければ、お客様もスタッフも命の危機だ。今年は、より暑くすでに6月からエアコンはフル活動しているが、全く効かない。外の方が海風が吹いて涼しかったりもするのは、本当に心苦しい。



そんな暑い6月。私たちは、『ショータイム廃止』宣言をした。

メディアで取り上げられ賛否両論の中、私たちは私たちの桂浜水族館の中で生きている。コロナ禍において、感染症予防対策としてショーの中止をしてきた。この2年間、私たちはショータイムという時間枠から解放され、次第に働き方を変化させてきた。ハマスイにとって、コロナ禍は苦しくもあるが、プラスなことも多々あった。2015年からの改革、第二形態に突入したように感じる。

そんな中、コロナ禍で気づいたこと。ショータイムがなくても当館はお客様に楽しんでいただけることがたくさんある。コロナ禍において時間枠を無くした働き方が目に見えて良い成果を出していた。それは、スタッフだけではなく、



桂浜水族館館長  
秋澤 志名



動物もしかり、またお客様もだ。みんなの笑顔が増え、青い空の下でとてもキラキラしているように私は感じた。それは双方がいつも互いに意識することができたことによりお互いの関係性が向上したことにある。7.5時間という労働時間内をいかに有意義に働くことで動物にも館にも利益をあげることができるかを全員が考え、行動することができるようになり、働きがいを見いだせたことにより表情や動きが変わった。「スタッフも動物もイキイキしたように感じた」と表現したのだ。

ショータイムに係る時間や費用をもっと有効に利用できないのか?など、さまざまな視点から検討し合った。「〇時〇分からショータイムを開始しますのでご入館ください」長年使ってきた呼び込みアナウンスだ。通常であれば、このアナウンスで多くのお客様の動員が見込める。しかしながら、当館はこの呼び込みをしたとて入館者数はさほど変わらない。それに、ここ数年、ショータイムの開始時間を諸事情があっても、少し遅ければクレーム対応に追われることも多々あった。そういったマイナスを廃止によりプラスに変える何かを考えたい方がずっといい。

ショータイム廃止を宣言したことにより、動物福祉を考えている優良な水族館だと報道された。しかし、私からすれば、どちらかというと「働き方改革」なのだ。地方の小さなこの水族館で働き方改革を実践していることを褒めてほしいのだけれども、働き方というよりは、働きがいがある職場を目指しての改革だ。

そもそも動物福祉は、これまでも実践していたので、



いまさら称賛されるのもおかしい。当館は動物の気分がのらなかつたり、体調が悪ければ中止をしてきた。それにショーが虐待だと言われていることも疑問だ。昨今の飼育技術により、飼育下において生物の健康管理ができることにより、野性での生存年数よりも長く生きているのは事実であろう。狭い水槽に閉じ込めていると批判はされども、私たちは、飼育環境において最善の努力をしている。トレーニングは、健康管理につながり、ショーは運動量の確保になっている。ショーは悪ではない。実際当館はショータイムの廃止を宣言したが、営業時間中にショーをしている状況があるのだ。トレーニングが急に始まる。動物とスタッフの双方のタイミングが合ったら突然にトレーニングが始まる。ふれあいが始まる。その場所には、お客様が集まりスタッフとの会話が生まれ、自然にショーとなる。私たちは「見せる時間」の枠組みを「見てもらう」ことに変化させただけだ。

水族館が批判されることもある。それはいろんな見方があるから仕方ないと思うが、ぜひ違う方向からも見てほしい。すべてが善だとか、すべてが悪である物事は一切ないと私は思っている。これからの時代を担う子どもたちに多様性を教えるのならば、私たち大人が多様性を認め、物事についても様々な意見があり、それぞれを認め批判しないことは大切だろう。生体に興味を持ち、知る機会や考える機会を作るのが水族館の意義でもあると思う。スイズクを通して様々な分野まで広がっているのではないだろうか。



この春、当館マスコットキャラクター「おとどちゃん」が高知市立浦戸小学校へ新1年生として入学した。桂浜水族館が建つ浦戸地区にある全校児童47人のちい

さな小学校だ。この小学校は、高知市内でも大変珍しい取り組みをしている。課題解決型授業「うらどベーシック」というまさに「多様性」教育をしている。私はこの小学校の取り組みがとても楽しくて仕方がない。おとどちゃんが入学することで、子どもたちとより近い距離で共に学ぶことができることに欢喜している。



1年生から6年生までが、地域の問題解決に取り組む授業なども大変興味深い。大人が考え付かないことを教えてくれる。スタッフも児童と仲良く夏まつりなどの行事にも参加させてもらっていることもあり、子どもたちに学ぶことも多い。毎年本館2階にあるアート魚ラリーでも企画展を開催しており、桂浜水族館は、浦戸小学校とともに「なんか変わって」進化している。

子どもたちが楽しく学びながら思い出を作れる水族館。大人になっても記憶の片隅に残っていて、何かを知りたい、学びたいと思ったきっかけを作った思い出の施設となりたい。

水族館とは、教育施設でありアミューズメント施設であり、エンターテインメント施設ではないだろうか。なんとも複雑であっておもしろい。

私は子どもたちに伝えたいことがたくさんある。教育というと硬くなるのであまり好きではないが、物事に対してquestionを持ち、知る楽しさを知ってほしい。探求心をたくさん持ってほしいのだ。情報社会のいまだからこそ、多様性の時代だからこそ、そう思えるのだろう。

桂浜公園の再整備もプレオープンの10月に向かって日々変化をしている。今日も暑い日差しのなか、涼やかな潮風が吹く浜辺を多くの観光客が歩いているのを見ると、頭の中にいろんなアイデアが湧いてくる。人や物事から学べることは多々ある。これを実現出来るか否か。今日もまた「なんか変わるで 桂浜水族館」の種が生まれる。

## ハマスイ学芸員としての誇り

桂浜水族館  
学芸員・飼育員 藤井 康行



博物館法上、水族館・動物園は博物館の一種とされ社会教育施設としての位置づけがなされている。しかし法律上の博物館(登録博物館)であるためには同法上の要件を満たす必要があるため、すべてではなく一定の要件のみ満たしている施設は「博物館相当施設」として、同法の適用外だが博物館と同種の事業を行っている施設は「博物館類似施設」として活動をしている。国内の多くの動物園・水族館は「博物館相当施設」「博物館類似施設」に該当する。そんな中、私が所属する桂浜水族館はなんと高知県内で最初に博物館登録がなされた施設であり、れっきとした登録博物館なのである。そのため観光施設として注目を浴びている面も大いにあるが社会教育施設としての役割も担っており、当館では「動物・お客様・スタッフとの距離の近さ」という特色のもと生体の飼育展示のみならず飼育動物にエサを与えることができる体験型展示、スタッフお手製解説板の掲示、飼育実習生・博物館実習生の受け入れ、近隣学校施設との提携などに力を入れている。

私は桂浜水族館で学芸員兼飼育員として働いており、資料管理や解説物の作成、実習生の受け入れ、フンボルトペンギンの飼育担当などを担当させてもらっているが学芸員としてはまだまだ見習いの身である。時に重く受け止めすぎてしまうこともあるが、私自身桂浜水



館内のウツボ水槽。装飾は私の自信作である

族館の自由な社風の下、のびのびと業務に向き合わせてもらっている。なにより私はここで学芸員として従事できていることに誇りを持っている。これは過去の話だが私は一度夢をあきらめかけた経験がある。生きものや描くこと作ることが好きだった私には、水族館で働きたいという夢を持っていたが、諸事情で一度それを手放し全く別の文系大学に進んだ。しかしそこで学芸員という仕事を知り、資格を取得してもう一度夢に向かう決心をした。『自分の好きだったもの、得意なことを活かせる仕事をしたい』『自分で作ったものを来館者に見てもらい生きものの面白いところを知るキッカケになりたい』そういった夢や目標を常に持ち資格の取得や知識・技術の習得、就職活動に力を注いできた。それでも採用はおろか面接にたどり着くことすらほとんどなく何度も挫折しそうになった。そんな中、桂浜水族館に学芸員として採用が決定した時は言葉で表せないほど喜んだ。想像していた以上に仕事も責任も多いため大変なことは多々あるが、学芸員として水族館業務に従事でき、目標だった物事に臨んでいる今は私にとって天職とも言えるだろう。しかし学芸の仕事とは面白いもので私の想像以上に業務の幅に上限というものがない。やりたければやりたいだけ、幅を広げたいだけ広げたいだけ様々な業務と向き合わせてもらうことが



最近新たに作成した手作りお魚紹介



でき、目標が達成されると新たな目標・やりたいことが1つ、また1つと浮かび上がってくる。そんな私が今後やってみたいと思っているものの上に「うらどまりんらんど」というものである。

「うらどまりんらんど」とは、桂浜水族館や同地区のうらど龍馬保育園さん、地元の方々が協力して淡水の生きものの飼育展示をしている保育園の中の水族館である。全国的に見てもあまり例のない取り組みであるが、正直なところ私自身立ち上げ時に参加した以降関わりが持てておらず、現状も把握できていないところの方が圧倒的に多い。だが、このような取り組みがあるにも関わらず、そこに触れられていないのは非常にもったいないと常々思っている。近年「魚離れ」という言葉を耳にするが、これは食だけでなく触れ合う機会自体が減っていることも関係していると考えます。実際私たちが子どもの時と比べ魚が泳ぐ自然な状態の川も減ったし、安全上の観点からそのような場所に近づく機会も減った。大きな責任が伴うためペットとしての飼育も容易ではない。それら要因によって生きものに触れる機会は自ずと少なくなっているのではないだろうか。そんな中、まりんらんどはフィールドや他の施設に行かずと

も日常の中で身近に生きものと顔を合わせることでできる理想の施設ではないかと私は思う。幼少期より身近なところで生き物と触れれば、年月が経ってもその経験はきっと心の中に残り続けるだろう。それがさらに多くの生物に興味を持つきっかけとなり自然や生きもの、それらを取り巻く環境を守りたい、もっと知りたいという気持ちを育むことにもつながっていくのではないかと考える。

私は現在関わりが持てていないが、今後携われる機会があればただ飼うだけでなく親子や友達、先生と楽しく話し合いながら生きものについての理解を深められる解説物や展示物の導入、私たち自身が定期的に出向いておはなし会やどんな生きものに会ったことがあるか自慢、生きもの講座といったイベントの開催をし、飼育動物からだけでなく動物とともに仕事をする私たちからも直接生きものと触れ合う機会を増やしていけたらと考える。また当館にやってくる飼育・博物館実習生も巻き込み、地域連携や仕事の幅の広さに触れてもらいながら自分たちのすぐ後ろを走っている人材育成にも力を入れていきたい。

動画や配信を見たい方は  
Youtube

公式 Mascot キャラクター「おとちゃん」が発信する水族館情報を知りたい方は  
Twitter

ハマスイをスタイリッシュに楽しみたい方は  
Facebook

公式ホームページ  
最新情報やイベント情報  
スタッフブログはここで  
チェック!

いろんなスタッフが撮った  
写真を見たい方は  
Instagram

なんが変わるまで、桂浜水族館

## 桂浜を守り育てる会 会計報告(令和3年4月1日~令和4年3月末日)

(単位円)

収入の部		支出の部	
会費(135口)	403,000	桂浜たより 11号	110,550
次期会費及び寄付	33,000	12号	121,330
利子	1		
		営業事務費用	
		会報送料(桂浜たより)	37,184
		会議費用	15,450
		事務用品	13,105
		(インク代、封筒類	
		ゴム印、印字振込用紙)	
		調査、編集事務手当(3名)	110,000
		会費振込手数料	20,133
		残高証明書(3銀行)	2,060
		寄付金	
		桂浜稲荷神社修復工事	200,000
計	436,001	計	629,812
前期繰越金	1,017,763	次期繰越金	823,952
合計	1,453,764	合計	1,453,764

上記の会計報告について、その正確性を調査の結果、適正であることを認めます。

令和4年4月4日

桂浜を守り育てる会

監事 和田 彪、竹内 鉄郎

## 編集後記

桂浜たより第13号は、皆さま方のご寄稿ご協力によりまして発行となりました。まずは、御礼申し上げます。

山崎様の『わが心のふるさと「桂浜水族館」』寄稿によると、彼が子どもの頃桂浜水族館は地域の子どもの遊び場、イルカの背びれに捕まって泳いだ思い出は生涯の思い出となったようです。浦戸で生まれ育った山崎様はお子さまを環境の良い浦戸で育てようと帰り住んでいます。そして、地域行事に積極的に参加しています。

寄稿をお願いした時は丁度浦戸小学校・春の運動会のお世話をしている時でして、トレーナー姿でご快諾いただいたことでした。

山崎様は昨年11月衆議院議員となられ、議会開催中は東京、週末は浦戸と多忙な生活しておられます。今後のご活躍を大いに期待申し上げます。

「おとどちゃんは1年生」浦戸小学校藤田校長は入学決定。愉快ですね。浦戸小学校の教育は「うらどベーシック」。自分で考え判断して学ぶ力は生涯役立つ力です。そこを目指して取り組んでいます。他校ともオン

ライン交流し、生徒の端末操作は長けています。

桂浜水族館はコロナ禍を乗り越え新たな働き方改革「見てもらう」水族館に変化。今日もまた「なんか変わるで桂浜水族館」の種が生まれる。時に応じた運営！素晴らしい！

そして、桂浜水族館は「登録博物館」であり、社会的博物館である。誇りをもって働いている学芸員・飼育員。当館の将来が大いに期待される。

時の流れに応じたりリアルタイムの情報発信もお楽しみください。

桂浜の再整備計画も進み、公園を一括管理する指定管理人も決定。来春3月グランドオープンを目指し飲食や物販を充実させる施設を整備中。

今号は、皆さま方のご寄稿ご支援ご協力により、発行となりました。また、編集・印刷は株式会社高知新聞総合印刷にお世話になりました。ありがとうございます。

なかた まさし

## 桂浜たよりVol.13

2022年8月発行(年2回1月8月発行)

発行/桂浜を守り育てる会(桂浜水族館応援団) 公益社団法人 桂浜水族館内

Tel/088-841-2137 Fax/088-841-2451 編集・印刷/(株)高知新聞総合印刷